
前科一犯

高木和久

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

前科一犯

【Nコード】

N1386E

【作者名】

高木和久

【あらすじ】

作家に憧れる青年が書いた一人称私小説であるよ明日、明後日と、もうじき三十、四十代を飛び越えて行くのdarou。こんな事件を起こしたのにも、年を取るという恐怖感があつたのだ

昨日、わたしは生まれて初めて牢屋に入りました。

『捕』という字が手篇で、なにかしら獣のような悪臭を放っているように感じる。盗んだ。その言葉の響きが口から発せられるとき、とても重大犯罪を犯してしまったと思う。このときの羞恥心のさざ波は一生涯、わたしの耳から消え失せることはないでしょう。

わたしはほそぼそと生きて参りました。役所から生活保護をもらいながら、母と二人、それこそ肩を並べて今日まで歩いてきました。わたしに第一声を浴びかけたのは、営業職から転職されてきたお巡りさんでした。バブル崩壊の矢先、契約社員として勤め、警察官採用の年齢制限ぎりぎりに合格されたと言っておりました。

被疑者は大田区馬込付近の駐車場から、放置された盗難自転車を営業の足とするため盗む。本日午後五時三十五分逮捕される。スーパーマーケット〇×にある電柱で逮捕住所確定。警察署本部盗難届けによると半年前、神奈川県鎌倉市で何者かによって施錠破壊、防犯登録シート毀損、多人数の手を渡ってきたものと推測。

両手で顔を抑えずにはいらなかった。二階。神奈川県警〇〇警察署。薄暗い階段を昇り、二十年前の机や椅子が置かれたオフィスへ。四畳半の個室へ入る。幸い鉄格子はない。俗に言う取り調べ室でしょう。荷物を脇の机の上に置け。凶器は持っていないな。

高校生の頃、運送会社でアルバイトをしていたときの上司に似た？ 武田信玄？を思わせる風貌。わたしと同じ年ぐらいの、そのお巡りさんは言う。

「お母さんに可愛いそうだろう。細腕で男の子を育て、就職氷河期を乗り越え、真面目にやっていたのに……」

そのとき、下の階から大きな話し声が響きました。

紺の作業服を着た上司がやってきたのでしよう。彼は部屋の外で「会社には内密に」と言っていました。出入口から見えない脇に立ち、わたしの顔を見ようとはしない。なんだか恥ずかしい。だがうるんだ目頭がまばたきを覚えるころ、彼は音もなく飛び込んで来ました。

「なにやっているんだお前！明日事務所へ名刺全部持ってこい」

彼の鋼のような胸板が揺れている。さわやかな短髪が、汗ににじむ人間味のある上司でした。三十前後の男の優しさを持っていました。

写真を撮った。手配写真の様。正面、横、斜め。身長、それから靴の大きさを測る。パソコンの前に座り、指紋を細かく、何枚もスキャンされました。ディスプレイに映された、真っ黒で重厚な指紋を見つめる。わたしは生きている気がしました。

初めての逮捕だったこともあり、起訴猶予処分になりました。

「次やったらアウトだからね」部下のお巡りさんは優しく言った。

だがわたしの個人情報、死ぬまで警視庁のデータベースに蓄えられるでしょう。正直、惜しい気持もある。魔も刺せない。

会社は？

世間も大事だが、わたしはまずみなさんにざんげしたいのです。悪いことは出来ない。真面目にこつこつと努力をしよう。怖がることはない。正しい道を歩んでいるのだから……。

ピンク色をさせた晴天の下、街中を歩きながらつぶやく。みなさんに伝えたいのはこのとおり書き記したこと。世界の外れに行ってもわたしは昨日から逃れることは出来ない。

そんな運命を、わたしは間違はなく背負っているのです。わたしは皆さんと輝くお日様に誓います。二度とやらないと。しかし人間

は罰がないと、悪いことをしてしまうものなのでしょうか。かつて孟子は正善説を唱えました。ほかにたくさんの方のひげを生やした学者たちが、根堀葉堀と同様なことを「わが思想だ」とたかだか唱えました。

最後に一言だけ言わせてください。そんなつもりはなかった。占有離脱物収得罪は立派な犯罪です。一年以下の懲役刑です。たとえば豪雨のさなか、置き忘れた傘をなにくわね顔で手に取れば、間違いなく『豚箱』行きです。たしかにお巡りさんもそう言っていました。このわたしは川に浮かぶ、迷子の枯葉のようなものです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1386e/>

前科一犯

2010年11月14日14時52分発行